

駒井ハルテック技報 Vol11 2022 発行にあたり



代表取締役社長 中村貴任

一昨年の春から新型コロナウイルスの感染が全世界に拡大し、大勢の方々が感染し、お亡くなりになられ、現在でも後遺症に苦しんでいらっしゃる方々も多数おられると報じられており、世界の様相は一変したと感じております。お亡くなりになられた方々にはお悔やみを申し上げますとともに、後遺症に苦しんでいらっしゃる方々にはお見舞いを申し上げます。また、ご苦勞されている医療従事者の方々には御礼を申し上げます。

新型コロナウイルスの影響は、これまでの働き方を大きく変えることとなりました。人との接触を避けるという感染拡大防止の目的から在宅勤務、TV 会議が社会全体に推奨され、ある意味において働き方改革を大きく推進した面もあります。今後、新型コロナウイルスがどういった形で終息するかは不透明ですが、もはや新型コロナウイルス以前の世界に戻ることはなく、ウイズコロナ、アフターコロナの時代となることは必至と思われま

す。当社業務の橋梁、鉄骨、環境業界においても飲食業界、観光業界ほどではありませんが、新型コロナウイルスの影響による計画の見直し、延期等の動きがあり、業界従事者の高齢化と相俟って厳しい事業環境が続いています。そうした中、当社は一昨年 10 月に関係者の皆様の支えにより創立 10 周年を迎えることができました。また昨年 4 月には社長交代、新体制へと移行しました。本年度の年度方針「スピード感を持った変革で成長軌道へ」を実践すべく、厳しい事業環境の中、全社一丸となって新たな仕事にもチャレンジしながら、次年度に最終年度を迎える中期経営計画 2019 を達成すべく取り組むことで、ますますの企業価値の向上を目指してまいり所存であります。

当社は、これまで数多くの橋梁、鉄骨、風車の建設に携わってきた技術力を活かし、これからも安全安心な製品づくりを心掛けてまいります。当社の経営理念「高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する」をモットーに技術力のさらなる強化、充実を図ってまいります。その技術の一部を「駒井ハルテック技報 Vol.11」として発行できることを大変うれしく思っております。

今、世界の技術は、大きな変換期に入っており、DX という言葉を聞かない日はありません。コンピューターの進歩により AI、ロボット等の活用が現実化しています。空飛ぶ車や宇宙エレベータ、海洋都市開発等も未来の話ではなくなっています。また、気候変動、地球温暖化対策としてカーボンニュートラルへの取組も新たな技術開発に繋がっていきます。これからは今後 50 年先、100 年先を見据えた上での技術開発も必要になります。業界を超えた技術の発展、進化、また産官学が一体となった技術の発展もますます求められることとなります。技術の変換期に当社が提供している社会インフラが国民の安全安心を担保するために新技術を導入し、品質を確保するという当社の責務を果たしてまいります。甚大な自然災害が多発する我が国において、これからも国土強靱化に貢献し、災害による被害をできる限り無くせるような面においても技術開発を進めてまいります。

最後に、本技報をご高覧いただいている関係者の方々にはこれまでのご支援に御礼申し上げますとともに今後も引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。